

速報：モニタリングサイト 1000 陸水域調査（湖沼）水生植物調査

びょうぶさんこしょうぐん
屏風山湖沼群サイト

— 青森県つがる市 —

屏風山湖沼群は、青森県津軽半島西海岸の「屏風山地域」に位置する日本でも有数の湖沼地帯です。海岸沿いに発達した砂丘列の凹地に多くの湖沼が点在し、砂丘の窪地に雪解け水がたまったもの、湧水によって維持される天然湖沼、灌漑目的で造られた堰止め湖が存在します。多様かつ豊富な水生植物が生育しており、日本では3か所のみで現存が確認されている水生植物がジャムコ（絶滅危惧ⅠA類）が生育する貴重な湖沼も含まれます。学術的な重要性や保全の必要性が指摘されていますが、農地開発や浚渫による湖沼環境や生物への影響が懸念されています。



定量調査の様子



踏査の様子

湖岸を歩いて発見した水生植物の種を記録します

2023年の調査結果概要

2023年8月26日～27日に屏風山湖沼群サイトで水生植物調査を実施しました。今年度の調査は、前回の2018年の調査に続く、第2回目の調査になります。今回の調査では、前回同様に、複数の湖沼で踏査とボートを用いた定量調査を実施しました。定量調査では、イバラモ・タヌキモ属の一種・ホッスモ・イトイバラモ・セキショウモ・クロモなどの沈水植物が多く場所で採取されました。また、前回の調査と比較して、ホッスモが確認された地点が増加しました。出現種に関しては、環境省レッドリストに掲載されているガシヤコ（絶滅危惧Ⅰ類）や車軸藻類が今回も確認されたほか、新たに沈水植物のヌズナ（絶滅危惧Ⅱ類）が確認されました。その一方、外来種については、前回に引き続きハゴロモ草が上沼で多く見られたほか、新たに園芸スズランが冷水沼の湖岸で確認されました。

【調査者・調査協力者】

山岸洋貴・吉田理見・成田陸人・横川寛太（弘前大学）、志賀 隆・加藤 将・三浦克仁（新潟大学）、首藤光太郎（北海道大学）、山ノ内崇志（福島大学）、堀内 弦（弘前市みどりの協会）、立花道草（日本国際湿地保全連合）



湖の広い範囲でハゴロモモ（重点対策外来種）が花を咲かせていました



前回に引き続きガシャモク（絶滅危惧IA類）が確認されました



今回の調査で初めてスブタ（絶滅危惧Ⅱ類）が確認されました



園芸スイレン（重点対策外来種）の群落が確認されました

モニタリングサイト1000陸水域調査（湖沼）についてもっと知りたい方はこちらにアクセスしてください。

モニタリングサイト1000陸水域調査（湖沼・湿原）の過去の調査報告書
<https://www.biodic.go.jp/moni1000/findings/reports/index.html>

モニタリングサイト1000陸水域調査 水生植物調査マニュアル第2版
https://www.biodic.go.jp/moni1000/manual/LakeAquaticPlants_manual_ver2.pdf

速報：モニタリングサイト 1000 陸水域調査（湖沼）水生植物調査

あかぎ おおぬま
赤城大沼サイト

— 群馬県前橋市 —

赤城大沼は、群馬県中部の赤城山（最高地点：黒桧岳1,828m）の山頂域にある湖面標高1,345m のカルデラ湖です。冬季は全面結氷し、氷上ワカサギ釣りで賑わいます。このような気候条件もあって、赤城大沼には、本州中部ではまれな北方系水生植物であるイトイバラモやホソバヒルムシロが分布しています。日本固有種であるイトイバラモは、主に北海道と東北地方に分布し、本州では数湖沼でのみ知られている希少種（絶滅危惧Ⅱ類）です。また、ホソバヒルムシロの本州における分布は東北地方及び長野県・群馬県の山地に限定されます。



改修工事中の啄木鳥橋



湖岸に広がるコカナダモ群落

2023年の調査結果概要

2023年8月30日～31日に赤城大沼サイトで水生植物調査を実施しました。今年度の調査は、前回の2018年の調査に続く、第2回目の調査になります。今回の調査では、前回の調査と同様に湖の周囲を踏査するとともに、湖内ではボートを用いた定量調査を実施しました。ただし、啄木鳥橋の改修工事により、前回調査を実施した赤城神社付近の入江では踏査のみを実施しました。定量調査では、前回と同様にコカナダモ・カタシャジクモ・クロモなどの沈水植物が多く場所で確認されました。出現種に関しては、環境省レッドリストに掲載されているカタシャジクモ（絶滅危惧Ⅰ類）、シャジクモ・イトイバラモ・ホソバヒルムシロ（絶滅危惧Ⅱ類）が確認されたほか、前回は確認されなかったヒメミズナ（準絶滅危惧）も確認されました。その一方で、前回に引き続き外来種のコカナダモが湖岸全域で確認されました。

【調査者・調査協力者】

大森威宏（群馬県立自然史博物館）、青木雅夫（水草研究会）、山ノ内崇志（福島大学）、加藤 将・大島愛翔・小池真裕（新潟大学）、立花道草（日本国際湿地保全連合）



カタシャジクモ（絶滅危惧Ⅰ類）



イトイバラモ（絶滅危惧Ⅱ類）



ホソバヒルムシロ（絶滅危惧Ⅱ類）



ヒメミズナ（準絶滅危惧）

モニタリングサイト1000陸水域調査（湖沼）についてもっと知りたい方はこちらにアクセスしてください。

モニタリングサイト1000陸水域調査（湖沼・湿原）の過去の調査報告書
<https://www.biodic.go.jp/moni1000/findings/reports/index.html>

モニタリングサイト1000陸水域調査 水生植物調査マニュアル第2版
https://www.biodic.go.jp/moni1000/manual/LakeAquaticPlants_manual_ver2.pdf

速報：モニタリングサイト 1000 陸水域調査（湖沼）水生植物調査

河口湖サイト

ー山梨県南都留郡ー

富士北麓に位置する河口湖は、山中湖や本栖湖、西湖、精進湖とともに富士五湖を構成する山岳湖沼のひとつです。湖の南方に富士山を望む風光明媚な景観から、2011年には国の名勝に指定され、2013年には世界文化遺産の構成資産にも登録されました。河口湖にはフジマリモやホシツリモ、ヒメイバラモ、ゴハリマツモなど、絶滅が危惧されている希少種を含め、多様な水草・大型藻類が生育しています。しかし、近年の観光客や観光開発の増加による湖水環境の悪化が懸念されており、河口湖の生態系を健全に保つ努力が求められています。



ボートから採集器を投げて定量調査を実施する様子



湖岸での踏査の様子
調査初日は雨の中での調査になりました

2023年の調査結果概要

2023年9月4日～5日に河口湖サイトで水生植物調査を実施しました。今年度の調査は、前回の2017年の調査に続く、第2回目の調査になります。今回の調査では、前回と同様に湖岸での踏査と湖内でのボートによる定量調査を行いました。定量調査では、セキシウム・クロモ・ホザキノフサモ・ヒメイバラモなどの沈水植物が多くの地点で確認されましたが、前回の調査で多くの地点で採取されたツツイトモは地点数が減少しました。出現種に関しては、今回の調査でも前回同様に、環境省レッドリストに掲載されているヒメイバラモ（絶滅危惧IA類）、カタシャジクモ・ヒメフラスコモ・キヌフラスコモ・オトメフラスコモ（絶滅危惧I類）、シャジクモ・トリゲモ・ツツイトモ・スジヌマハリイ（絶滅危惧II類）が確認されました。一方で外来種については、前回同様にコカナダモが確認されたほか、新たにキシウブが確認されました。

【調査者・調査協力者】

芹澤如比古・浦野快生・武山遥奈（山梨大学）、志賀 隆・加藤 将・内藤芳香・三浦克仁（新潟大学）、横井謙一・立花道草（日本国際湿地保全連合）



セキシウム
受粉した雌花がらせん状に縮んでいます



ヒメイバラモ（絶滅危惧IA類）



オトメフラスコモ（絶滅危惧I類）



トリゲモ（絶滅危惧II類）

モニタリングサイト1000陸水域調査（湖沼）についてもっと知りたい方はこちらにアクセスしてください。

モニタリングサイト1000陸水域調査（湖沼・湿原）の過去の調査報告書
<https://www.biodic.go.jp/moni1000/findings/reports/index.html>

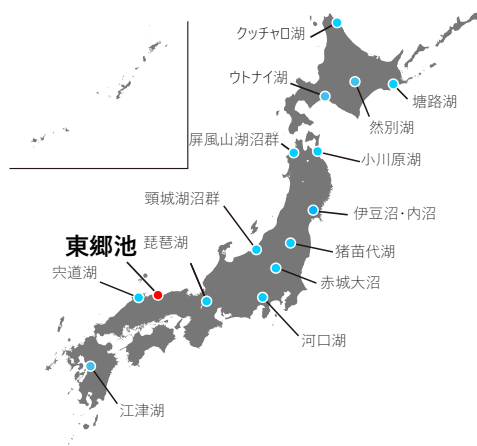
モニタリングサイト1000陸水域調査 水生植物調査マニュアル第2版
https://www.biodic.go.jp/moni1000/manual/LakeAquaticPlants_manual_ver2.pdf

速報：モニタリングサイト 1000 陸水域調査（湖沼）水生植物調査

とうごういけ
東郷池サイト

— 鳥取県東伯郡湯梨浜町 —

東郷池は、鳥取県の中央部の日本海岸に位置する汽水湖です。かつては水生植物や魚介類が豊富に生育・生息し、地域住民の生活に密着した湖でした。しかし、周辺地域の都市化が進むにつれ水環境は悪化しています。水生植物は20種以上が記録されていましたが、近年になり在来種は減少し、外来種が侵入していることが明らかになっています。しかし、2015年に約50年ぶりにセキショウモの生育が確認され、地元役場や地域住民らが中心となり、保全活動が行われています。



ボートによる定量調査の様子



前回の調査ではオオササエビモが一面を覆っていた水路
今回は水生植物が確認されませんでした

2023年の調査結果概要

2023年9月8日～10日に東郷池サイトで水生植物調査を実施しました。今年度の調査は、前回の2018年の調査に続く、第2回目の調査になります。今回の調査では、前回と同様に湖岸および周辺水路での踏査と湖内でのボートによる定量調査を行いました。定量調査では、前回はオオササエビモやホザキノフサモ等の沈水植物が複数の地点で確認されていましたが、今回の調査では水生植物はほとんど採取されず、セキショウモがわずかに1地点で採取されたのみでした。出現種に関しては、前回の調査では環境省レッドリストに掲載されているミズオオバコ（絶滅危惧Ⅱ類）が確認されていましたが、今回は確認できませんでした。一方で外来種は、オオカナダモ・コカナダモ・オオフサモ・キショウブが前回の調査と同様に確認されたほか、新たにアメリカミズユキノシタが確認されました。

【調査者・調査協力者】

森 明寛・成岡朋弘・盛山哲郎・政井咲更美（鳥取県衛生環境研究所）、日置佳之（鳥取大学）、山ノ内崇志（福島大学）、加藤 将（新潟大学）、汐田達哉（米子工業高等専門学校）、立花道草（日本国際湿地保全連合）



前回の調査でも確認されたオオフサモ（特定外来生物）



前回の調査でも確認されたセキショウモ
今回の定量調査での唯一の確認種です



採取した水生植物の標本を作成する様子



新たに確認されたアメリカミズユキノシタ（重点対策外来種）

モニタリングサイト1000陸水域調査（湖沼）についてもっと知りたい方はこちらにアクセスしてください。

モニタリングサイト1000陸水域調査（湖沼・湿原）の過去の調査報告書
<https://www.biodic.go.jp/moni1000/findings/reports/index.html>

モニタリングサイト1000陸水域調査 水生植物調査マニュアル第2版
https://www.biodic.go.jp/moni1000/manual/LakeAquaticPlants_manual_ver2.pdf